

2025 年度 国内研修 研修成果報告書

① 学生証番号: [REDACTED] ②氏名: [REDACTED] ③研修テーマ: 商店街活性化 ④研修場
所: 旭川平和通買物公園⑤研修期間: 2026年2月1日～3日⑥研修参加人数: 5名

第一章 研修の概要

第一節 研修の目的

本研修の目的は、地方都市にある商店街の取り組みを実際に現地で学び、今後八王子銀座通り商店街で考えている活動に活かすヒントを得ることである。

八王子銀座通り商店街には、昔から続く個人店や魅力的なお店が多くある。しかし、そうしたお店の存在が若い世代に十分知られているとは言いがたいと感じている。私自身、もっと多くの人に知ってもらう仕組みがあれば、商店街の魅力は広がるのではないかと考えている。現在、若者を巻き込みながらイベントやマルシェを企画することで、商店街と若年層をつなぐ取り組みを構想している。ただし、イベントを一度きりのものにせず、継続的なにぎわいにつなげるためには、実際に成果を上げている商店街の事例から学ぶ必要がある。

そこで、日本初の歩行者専用道路として知られる旭川平和通買物公園に着目した。旭川は豪雪地域という厳しい条件にありながらも、年間を通じてイベントを実施し、商店

街のにぎわいを維持している。本研修では、現地での観察や調査を通して、その仕組みや工夫を学び、八王子銀座通り商店街に活かせる可能性を探ることを目的とする。

第二節 調査方法

本研修では、フィールドワーク（現地観察）およびインタビュー調査を実施した。

2月1日（日）フィールドワーク（現地観察）

旭川平和通買物公園を実際に歩き、商店街の空間構造や店舗構成、来街者の動きなどを観察した。現地を自ら歩くことで、商店街の規模や雰囲気を感じることができた。

2月2日（月）17時～18時30分 インタビュー調査

旭川平和通商店街振興組合旭川平和通買物公園企画委員会事務局長の山岡揚子氏にインタビューを行った。商店街の歴史、運営体制、イベントの企画、組合の仕組みなどについて話を伺った。

第二章 旭川平和通買物公園の概要

第一節 旭川平和通買物公園の歴史と現在

旭川平和通買物公園は、1972年に開設された日本初の恒久的歩行者専用道路である。

旭川駅前から約1kmにわたって続き、中心市街地の軸となっている。もともとは車道

であったが、都市環境の改善と中心市街地の活性化を目的として歩行者専用道路へと転換された。現在は商業の場であると同時に、市民活動やイベントの場としても活用されている。買物公園には、昔から続く個人商店とチェーン店が共存している。また、年間を通じてさまざまなイベントが実施されており、地域内外から多くの来街者を集めている。商店街振興組合が運営を担い、企画委員会を中心にイベントや取り組みが進められている。代表的なイベントとしては、「氷彫刻世界大会」「旭川夏まつり」「北の恵み 食べマルシェ」などが挙げられる。

第三章 現地観察の結果

2月1日に旭川平和通買物公園を実際に歩き、商店街の様子を観察した。事前に抱いていた商店街のイメージは、入口にゲートがあり、比較的狭い通りの両側に店舗が並ぶ構造であった。しかし、買物公園には明確なゲートはなく、全体的に開放的で広い空間が広がっていた。直線的で見通しの良い歩行者専用道路であり、従来の商店街像とは異なる印象を受けた。商店街の入口付近にはミスタードーナツや、北海道で人気のパン屋「どんぐり」が手がける「コロコロ」などの店舗があり、個人店だけでなくチェーン店も多く見られた。道幅は非常に広く、歩行者がゆったりと移動できる構造となっていた。当日はイベントの開催はなかったものの、人通りは一定数あった。しかし、特定の店舗に立ち止まったり、集まったりしている様子はあまり見られず、移動のための通路とし

て利用している人が多い印象であった。特に印象に残ったのは「まちなかぶんか小屋」である。ここはNPO団体が運営するコミュニティスペースであり、訪問当日も「アートを哲学する」というテーマの講座が実施されていた。商業空間の中に文化的活動の拠点が存在している点は、商店街の役割を考えるうえで興味深いと感じた。

第四章 インタビュー調査の内容

2月2日、旭川平和通商店街振興組合旭川平和通買物公園企画委員会事務局長の山岡揚子氏にインタビューを行った。山岡氏によると、買物公園では年間を通して数多くのイベントが実施されており、大規模イベント時には商店街が人で埋まるほどの来街者が集まるという。月に一度以上の頻度で何らかの催しが行われているとのことであった。しかしその一方で、長年関わってきた地域住民からは「もっとイベントを増やしてほしい」「まだ盛り上がりがない」といった声が寄せられることもあり、期待とのバランスをどのように取るかが課題の一つであるとのことだった。

組合の運営体制については、企画委員会や青年部が存在しているものの、中心となっているのは主に40代以上の世代であり、高校生や大学生などの若年層との関わりは必ずしも深いとはいえない現状があることが分かった。また、世代交代についても伺ったが現在企画部にいるのが40～50代が多いためまだ世代交代についてはそこまで具体的に考えていないとのことだった。

第五章 考察

本研修を通して、商店街の活性化はただイベントの回数を増やすことではなく、どのような人がどの段階から関わるかが重要であると感じた。旭川平和通買物公園と八王子銀座通り商店街にはいくつかの共通点がある。どちらも歴史ある個人店が多く存在し、地域に根付いた商店街であること、そして若年層との接点が十分とはいえない点である。一方で、旭川は日本初の歩行者専用道路として広い空間を有しているのに対し、八王子銀座通り商店街はより生活に密着した商業空間であるという違いがある。

旭川では月に一度以上の頻度でイベントが実施されているものの、地域住民からはさらなる盛り上がりを求める声もあるという。このことから、イベントの量だけでなく、誰が企画し、誰が主体となるのかが重要であると考えられる。企画委員会や青年部は存在するものの、中心は30代以上であり、学生世代との関わりは限定的であった。この点は八王子銀座通り商店街においても大きな示唆となる。今後、若者を企画段階から関わる主体として位置づけることで、より若い世代の視点や発信力を取り入れることが可能になるのではないかと考える。旭川の事例から学んだ継続的なイベント運営の仕組みと組織体制を参考にしながら、八王子銀座通り商店街においても若者主体の取り組みを具体化していきたい。

インタビューの際、山岡氏から今後もぜひ一緒に活動できれば嬉しいとの言葉をいただいた。このご縁を大切にしながら、八王子銀座通り商店街での活動を継続するとともに、将来的には旭川平和通買物公園にも貢献できるような取り組みを実現していきたい。

【参考文献】

北海道庁「旭川まちなかプロジェクト」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/1/0/0/3/9/2/6/3/_/%E6%97%AD%E5%B7%9D%E3%81%BE%E3%81%A1%E3%81%AA%E3%81%8B%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88.pdf（最終閲覧日：2026年2月20日）

旭川平和通買物公園公式サイト <https://www.kaimonokouen.com/>

（最終閲覧日：2026年2月20日）

まちなかぶんか小屋公式サイト <https://www.bunkagoya.jp/>（最終閲覧日：2026年2月20日）